

会派会長： 山本 雅宏 印

政務調査研究視察 報告書

報告者：梅村 順一

視 察 日	平成21年2月3日 (火)
視 察 先	豊橋市
視 察 内 容	豊橋駅整備事業について
視 察 者	梅村順一
愛知 豊 橋 市	<p>1 豊橋市の概要 人口：372,479人 世帯数：133,705世帯 面積：261km²、歳出：1053億、財政力指数：1.00、県東部の中心地で、商工業や農業がバランスよく発展。三河港は、日本有数の自動車港湾、農業生産額も全国屈指。中核市であり、人口や歳出額は本市と近い状況である。</p> <p>2 整備事業の概要 豊橋駅は、新幹線を始めとする各種鉄道（JR東海、名古屋鉄道、飯田線、豊橋鉄道）、バス路線などを集約する総合駅であったが、近年施設の老朽化や交通ターミナルの分散により機能が低下。また、鉄道による市街地の東西分断化や生活様式の変化により、交通結節点の見直しとともに中心市街地の再活性化が必要となった。昭和62年に、「豊橋駅周辺地区整備構想」の方針。平成元年、中心部の開発事業が位置づけられた。</p> <p>3 整備概要と手法 <東西自由連絡通路> 駅ビル2階の中央部を開通させ、分断された市街地の一体化を図る。都心交通改善事業(国)と人に優しいまちづくり推進事業(県)を活用。事業主体豊橋市で34億円。 <橋上駅舎> 東西自由連絡通路を整備により、線路上に駅舎を新設。新幹線駅舎整備事業(県)と人に優しいまちづくり推進事業(県)を活用。事業主体はJR東海で、67億円。 <東口駅前広場> ペDESTリアンデッキを整備し、歩行者空間の整備と交通結節点の機能強化。都心交通改善事業(国)と街路事業(国)を活用。事業主体は豊橋市で50億円。 <豊橋ステーションビル> シティホテルと専門店集積の複合ビルによる賑わいの創出。事業主体は、JR東海と豊橋ステーションビルで130億円。総額280億円の事業となった。</p> <p>4 駅南都市拠点開発事業 豊橋東口駅南地区は、豊橋駅直近にありながら、鉄道に挟まれた低・未利用地でした。本事業は、鉄道再編と公共施設の整備を行い、高度な都市機能の導入を可能とする基盤整備を推進するものです。現在渥美線の新豊橋駅が開通し、ペDESTリアンデッキが整備され、優良建築物等整備事業も着実に進行しています。</p>
豊 橋 市	<p>〔感想・岡崎市への反映〕 中核市として玄関口となる駅周辺整備は重要な施策となる。そこには、中心市街地活性化も見据えたなかで、積極的な整備手法を取り入れたことが注目される。まちづくり交付金を有効に使い事業年度間の流用をしたり、土地区画整理事業の換地手法により公共空間を捻出することに感心した。総事業費が、280億に対して市の負担は84億円となった。本市も検討が必要だ。</p>

